



た ま し ょ う こ
玉小っ子

<http://www.town.tamamura.ed.jp/tamamura-e/>

令和3年度 玉村小学校
学校だより 第21号
2021年12月10日発行

二者面談たいへんお世話になりました。短い時間でしたが、保護者の方とお話ができる貴重な機会となりました。2学期もあと2週間を切りました。しっかりと振り返りを行って、子どもたちにも成長を実感させていきたい思います。

地域で学ぶ、地域に学ぶ

玉小は、町のいろいろな施設に近いこともあり、地域に出かけていって学ぶこともできます。

3年生は、社会の学習で消防署の見学に行きました。見学の前には、質問したいことを考え、目的意識をもって見学にのぞみます。「消防車は何台あるのか?」のように、見学すれば分かるものもあれば、「火事がない時には何をしているのか?」のように実際に聞かなければ分からない質問もあります。見学している時に出動要請があり、救急車が目の前で出動していきました。教科書だけでは分からない実際の様子も実感できました。



2年生は、生活科の町探検で町立図書館の見学に行きました。図書館の仕組みやたくさん本、CDやDVDを貸し出していること、普段は見られないバックヤードにもたくさん本があることなど、図書館の秘密をたくさん発見できました。また、感染予防のため本を消毒できる機械もあることも驚きでした。質問もはっきりでき、静かに見学するなど、マナーを守って行動することもできました。

地域に出て学ぶだけでなく、地域の人にきてもらって学ぶこともあります。

5年生は助産師の方に来ていただき「いのちの授業」を行いました。助産師さんから、受精から出産までの長いみちのりをていねいに説明していただきました。この授業を通して、いのちが生まれることは奇跡的で素晴らしいことであること、そして、自分自身の存在の大切さに気づいてくれたと思います。



4年生は、総合の時間で「福祉」について学んでいます。1回目は社会福祉協議会の方と視覚障害をお持ちの方に来ていただきました。校舎内を歩き回りながら、介助をするときにはどんなことに気を付けたらよいかを具体的に教えてもらいました。少しの気遣いと声をかけることでスタスタと階段を上っていく姿に「すご

い」という声があがりました。とても明るい方で、障害に対するイメージも変わったと思います。来ていただいた方は、玉小の子がとても素直な反応してくれて気持ちよかったと言っていました。2回目は、車椅子体験でした。実際に乗ったり、押したりすることで、少しの段差でも大変なこと、乗っている人の身になって押すことが大事なことも分かったようでした。



その他にも、農家見学、動物ふれあい教室、書き初め教室、情報モラル講習会、読み聞かせ、玉小ステーションの放課後学習など、地域を生かした取り組みはたくさんあります。このような活動は、子どもたちの学習にもとても効果的であると同時に、地域の人に玉小の子どもたちを知ってもらうよい機会にもなります。

先生たちも学んでいます

子どもたちに学力をつけてほしい、考える力を身に付けてほしい、そのためには、どのような授業をすればよいのか、新しく入ったタブレットをどう使えばよいのか……。先生たちも学び続けなくてはなりません。2学期は、先生たちも学ぶ機会が多くありました。授業を参観し合って検討したり、外部の人に授業を見



てもらって、アドバイスをもらったりしています。県立女子大学の先生や学生、ALTと一緒に授業をしたりもしました。授業後の検討会は、どうすればもっとよくなるかと、白熱した話し合いになります。先生たちも子どもに負けないように学んでいます。

<青い目の人形ルースちゃんの秘密>

人権集会の時に紹介した玉小のルースちゃん。みんなに見てもらえるように校長室前に飾ってあります。「あっ ルースちゃんだ!」「アメリカの旗がある!」など、興味をもって見てくれています。

ルースちゃんの秘密をもう一つ教えます。94年前、日本とアメリカの仲が悪くなってしまったことをどうにかしたいと、日本の子どもに人形を送ろうと考えたアメリカ人のギュリックさん。その人形を日本で受け入れるために日本の代表となって活躍したのは渋沢栄一さんでした。渋沢栄一さんは、「日本経済の父」と言われていて、2024年には新しい1万円札の顔になります。渋沢さんは、ギュリックさんの考えに共感し、人形の歓迎会を開いたり、日本中の学校に人形を配ったりしました。そして、お礼に日本の人形をアメリカに送ったそうです。

